別紙様式1

令和4年度　学校評価表

（ 中間 ・ 最終 ）

三原市立本郷小学校

校番（17）

a 学校教育目標	夢大きく心豊かな児童の育成 ～知・徳・体　キラリと光る三つ巴っ子～	b 経営理念 ミッション・ビジョン	【ミッション】（自校の使命） 自分を愛し，夢を語る児童の育成 【ビジョン】（自校の将来像） 地域を愛し，確かな学力と豊かな心を持ち心身共に健康な子どもを育成し，地域・保護者から信頼される学校

評価計画						自己評価					改善方策	学校関係者評価			
	c 中期経営目標	d 短期経営目標	e 目標達成のための方策	f 評価項目・指標	g 目標値	10月 h 達成値	2月 h 達成値	i 達成度	j 評価	k 結果と課題の分析	n 改善方策	l 評価 イ	l 評価 ロ	l 評価 ハ	m コメント
確かな学力	すすんで学び，よく考え豊かに表現する学力を育てる。	◎基礎・基本の学力向上 ★学力テスト等目標値達成率の向上 （社会科・算数科）	○学習の重点と系統性を意識した各学年の指導 ○単元末テスト，学力調査の結果を分析・活用 ○フォローアッププリント等の活用 ○三つ巴っ子タイム・チャレンジタイムの充実	単元末テスト（算数科・社会科）の平均点が80点以上の児童の割合（%）	80	算数 74 社会 81		C		算数科では，思考力・判断力・表現力を問われる問題に課題がある。また，学年が上がるにつれて，学力差が大きい。	NRT学力テスト等から全校児童のつまずきの領域を分析し，課題となったところは三つ巴っ子タイムやドリルタイムを使って補充していく。また，2か月に1回全校で学力テストを実施し，どれだけ学力が伸びたか，また新たな課題を見つけて取り組むなどして学力定着を図る。	○			・全国学力テストの結果を受けて，幼稚園でも自分の考えを表現する力に課題があると思う。相手の気持ちを受け入れることも必要だと感じている。 ・「授業が分かって楽しい」と答える児童は多いが，点数に結び付いていないので，学ぶ楽しさを味わい，学力定着につながるとよいと思う。 ・算数科については，高学年になるにつれて理解度が少し落ちる傾向にあるように思う。 ・課題の克服に向けて取組が成果につながることを期待している。 ・教え合いは主体性を育成するためにも効果的な方法だと思う。 ・ICT活用は使うことが目的にならないよう気を付ける必要があると思うが，効果的な方法だと思う。
		◎誰もが学ぶ喜びを感じる，主体的で対話的な学びの創造 ★論理的思考力・コミュニケーション能力育成の場の設定	○単元構成の工夫 ○他教科・他領域との関連場面の意図的設定 ○学びの変革指導案の全員作成 ○授業モデル・本郷スタイルの継続と徹底・改善	授業が分かって楽しい児童の割合（%）	90	算数 81.7 社会 86.8		B		「いいえ」と答えた児童の多くは，進んで発表するのが苦手だからと答えている。また，学年が上がるにつれて，肯定的評価が下がっている。	自分の考えなどペアで対話したり，わからない所は教え合ったりするなど，「分かった・できた」を積み重ねていく。引き続き各担任が授業づくりを工夫したり，児童主体の授業や単元を構築したりする。	○			
		◎ICT教育の充実・推進体制の確立 ★ICT教育の充実 ★校内の推進体制の確立	○クロームブックを活用した，ICT教育の実施 ○ICTについての校内研修を実施し，知識の共有と工夫・改善	○協働的な学びにICTを活用していると感じている児童の割合（%）	75	82%		A		中学年以降は，タイピングなど使える機能が増え，日々の授業で活用できている。また，定期的にICT研修を行ったり，活用している教員に尋ねたりするなど，職員の知識の向上や共有を図っている。	引き続き，定期的にICT研修を行い，知識等を共有していく。また，ICT活用系統表を元に，各学年終了時までに，身につけさせたい技能を習得させる。	○			
豊かな心	地域を愛する心をもつとともに，夢や目標をかなえるための生活習慣を身に着けさせる。	◎考え議論する道徳の推進 ★授業が楽しい95%以上	○問題解決型の指導過程等，指導過程の工夫	道徳科が楽しいと思う児童の肯定的割合（%）	95	91		B		「道徳科が楽しい」という肯定的評価が91%だった。道徳科の授業改善を進めてきた結果である。道徳の授業を楽しみにしている児童の割合は高い。	今後も役割演技をしたり，学年に応じたICT活用をしたりしながら，道徳の学習を楽しみにしている児童の意欲に合わせて，自分の生き方をじっくりと考えていけるような指導方法の工夫を継続していく。	○			・コロナ禍により集会活動や子供たちの活躍の場が少ないので，コロナ禍でできるものを引き続き進めていってほしい。また，子供たちが活躍した様子を視える化し，互いに頑張りを認め合えるようにするとよい。 ・友達の良いところを見つけることで自分の良さにも気づくよい取組である。 ・地域のつながり，体験は将来の目標を見つけ出すきっかけとなる。 ・道徳科が楽しい児童が多いのは素晴らしいことだと思う。学校としての授業改善の成果だと思う。 ・コロナ禍で制限が多い中地域としてかかわりを工夫して行っていると思う。 ・不登校については学校と家庭とのつながりを大切にしながら取組を継続してほしい。
		◎道徳教育・生徒指導の小中連携。 ○道徳時間と体験活動の結びつけ ★自己肯定感90%以上 ★感謝の気持ちの表現95%以上	○児童会活動の主体的活動充実 ○目標となる具体的な姿の提示 ○強化週間の実施 ○児童会活動との連携	○自分にはよいところがあるという児童の肯定的割合（%） ○感謝の気持ちを表している児童の肯定的割合（%）	90 95	82 95		B A		昨年度同様，自己肯定感をもつことができにくい児童が2割いる。コロナ禍で，他者との交流に制限があることが考えられる。感謝の気持ちを伝える場は多くはないが，コロナ禍でもできることはないか児童が自らが考え，活動をすることができた。	今後は，意図的に児童を評価する場を設定するとともに，一人一人が置かれている背景や課題を明確にし，個別に支援を行っていく。また，道徳科の授業や児童会の取組を通して多くの支えがあることに気付かせていく。	○			
		○コミュニティースクールの導入にむけた，地域（人・もの）を活用した学習の推進 ★GT招聘，地域学習の推進	○各教科，道徳の時間，総合的な学習の時間等で地域活用学習の導入	地域に貢献できていると感じている児童の割合（%）	65	89%		A		年度当初に設定にした目標を達成することができた。あいさつを通して，地域の方との関わりをもったり，総合的な学習の時間で地域の高齢者の方などとの繋がりをもったりするなど，コロナ禍でできることについて考えて活動することができた。	直接，地域の方とのかかわりをもつことが難しい中で，自分たちができることは何か自ら考える時間をとるなどして，今後も地域とつながる活動を継続して進めることができるようにしていく。	○			
		◎いじめ・完全不登校の根絶 ★いじめ0，完全不登校児の減少	○家庭との連携 ○支持的風土の学級経営	いじめ完全不登校児童の数値	いじめ0件 不登校の減少	いじめ0件 不登校　2名		B		生徒間暴力事案は・いじめ事案はともに0件（1学期）である。児童のおかれている状況を見逃さず，早期の取組を継続してきた。30日以上欠席した不登校児童は2名である。	いじめに関わって積極的認知を行い，早期発見・迅速な取組を継続していく。問題行動に対しては，毎日の問題行動等の全体共有の場は継続していくとともに，積極的に生徒指導を進めていく。不登校児に対しては，担任を中心に家庭と他機関との連携を図りながら，今後の方針について考えていく。	○			
健やかな体	体力を高め，食に対する高い意識を育てる。	○基礎体力の向上 ★新体力テスト全種目中66／96全国平均以上	○体育科授業の工夫と改善 ○鉄棒・なわとびの推進	新体力テスト全国平均（平成31年度）を上回る児童の割合（%）	80	54%		D		今年度は全校で体力テストを実施することができ，平成31年度の全国平均値を上回った児童は54%であった。（52/96）特に握力は6年生の女子以外，全国平均を下回った。	体育の時間において，鉄棒，縄跳び，サーキットに継続して取り組み，児童の運動能力の向上を図る。外遊びを奨励し，休憩時間も児童の運動量を保障する。	○			・基礎体力の低下はコロナの影響もあるのではないかと思う。 ・コロナ禍の影響のためか体力が落ちている。 ・基本的な生活習慣については中学校でも保護者啓発をしているが，現実は難しい。夜遅くまで起きてゲームをしている状況があるはず。 ・ゲーム依存は脳に障害をきたすことを伝えたい。 ・残菜0の取組内容を時代に合ったものにするために，量を調整しながらバランスよく食べるよう指導を改善されていて必要なことだと思う。 ・食育が十分にできている。 ・食育は食の大切さや感謝の気持ちを育むことを大切にしたい。
		◎食育の推進・基礎的生活習慣の確立 ★残菜0の推進0の日週3日 ★早寝，早起き，朝ごはんの推進	○食育指導・保護者啓発活動の実施 ○集中取組期間の実施	○集中取り組み期間に，残菜0（週3日以上）にしたクラスの割合（%） ○集中取組期間に，早寝・早起き・朝ご飯に取り組めた児童の割合（%）	80	95% （量を調節） 早寝61% 早起き68% 朝ごはん85%		A B		1学期は，食べられる量を調節して残菜調べを行ったところ95%の児童が残すことなく完食した。早寝・早起き・朝ごはんについては引き続き保護者との連携が必要である。	毎日の給食指導で，食べられる量の調節を行うこと，苦手な料理の場合には，少しでも食べるように指導をしていくことを継続していく。早寝・早起き・朝ごはんについては今後も保健だよりや学年だよりなどで保護者に啓発していく。	○			
		◎清掃活動の質の向上 ★無言，時間いっぱい，隅々	○掃除の仕方の指導の徹底 ○短期集中取組期間の設定	3つの項目を達成した縦割り班・学級掃除の割合（%）	80	82%		A		昨年度に続き，コロナ禍のため縦割り班掃除は実施できず，学級掃除に取り組んでいる。短期集中取り組み期間では，82%以上の児童が無言，時間いっぱい，隅々まで掃除に取り組むことができている。	今後，コロナウイルスの感染者状況を見て縦割り班掃除を再開する予定である。高学年が低学年に掃除の仕方を教え，時間いっぱい無言清掃に取り組み，児童の掃除への意欲を育てていく。	○			
信頼される学校	地域や家庭の願いに応えるとともに，15年間を見据えた教育を行う。	◎情報を公開し，説明責任を果たし，満足度向上 ★月1回以上，学校だより・生徒指導だよりの発行	○学級通信，学校だより，メール配信システムやホームページでの情報発信 ○学級懇談会，個人懇談会をとおして説明責任を果たす。	保護者へのアンケートによる子どもの成長への満足度の割合（%）	90	98%		A		日常の子どもたちの様子は学年，学校便り，ホームページ等で積極的に伝えている。学級懇談会，個人懇談会を学期に一度ずつ行ってきている。 情報発信は「すぐーる」で素早く，的確に伝えられるようになった。	今後も，日々の保護者連携，学級懇談会・個人懇談会等，学年，学校便り，ホームページ等で児童の様子を積極的に伝えていく。 ICT（すぐーる）を活用した情報発信を積極的に行っていく。	○			・毎月発行される学校だよりで学校の取組が詳細に書いており楽しみにしている。 ・積極的に情報発信されている。 ・働き科方改革の取組として，時程の変更など，工夫されている。 ・みんなで協力して業務を分けることで，時間外勤務の平均化を図る取組をより一層進めていってはどうか。 ・広島県における不祥事の状況は，大変な心配な状況。取組を継続してほしい。 ・働き方改革は，職員の意見も聞きながら，進めていくことが大切である。
		◎タイムリーな服務研修の実施 ★時期に応じた研修内容，全職員の担当割り当て	○不祥事防止委員会が中心となり，マンネリ化，無自覚がない内容を計画	服務や仕事に対する職員への意識を向上させる。満足度の割合（%）	80	89%		A		研修は計画的に行われてきている。不祥事防止委員会で毎月の状況を交流してきた。また，組織的な取組と職員間の連携を日常的に行ってきた。服務や仕事に対する職員の満足度は89%である。	年間計画に沿って継続して研修していくとともに，タイムリーな研修も設定していく。組織的な取組を行い，業務改善を行っていく。	○			
		○働き方改革 ★次世代の働き方への体制づくり	○時間外勤務の短縮 ○計画的な定時退校日の実施	時間外勤務月45h以下を6か月以上実施	100	77%		C		学級事務に含め，コロナ対策等，増加した業務に対して，効果的な改善策が十分にできていないところがある。週に1回の学級事務を行う時間を確保してきたが，他の業務に時間を取られることがあった。6か月中3か月達成した教員の割合77%	思い切った業務改善策の案も検討していきながら会議の精選やICTなどを活用するなど次世代に向けた働き方改革を組織的に進めていく。また，整理整頓など業務がスムーズに進むように全職員で心がけていく。	○			

本年度の重点目標については◎印で示す。

【j:自己評価　評価】
A:100≦（目標達成）　B:80≦（ほぼ達成）＜100
C:60≦（もう少し）＜80　D:（できていない）＜60

【l:学校関係者評価　評価】
イ:自己評価は適正である。　ロ:わからない。
ハ:自己評価は適正でない。